

おとさぽ[♪] vol.5

Annual Report 2025

SHIGA UNIVERSITY
滋賀大学



音楽を、生きる力に。

音楽のもつかって何でしょう？

音楽でなら言葉にならない思いを表現したり、

感じ取ったりすることができます。

音楽は言葉や年齢、障がいを超えます。

そして、人とひとをつなぎます。

音楽を真ん中に楽しい時間を過ごしませんか。

障がいと共に生きる方々が

生涯にわたって音楽に親しむ機会をと

おとさぼが創設されました。

音楽を楽しむ中で

好きなことを見つけたり

誰かの居場所になったり

ご家族が笑顔になったり

出会いと発見の場になりますようにと願っています。

音楽で生きる力を育むのではなく、

音楽そのものが生きる原動力になる。

音楽を、生きる力に。

おとさぼの創設に寄せて

滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター長

林 睦



otosabō

滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター

もくじ

巻頭特集 第2回おとさぼファミリーコンサート

- 05 アウトリーチ事業 ①
- 09 インリーチ事業 ②
- 11 指導者研修会 ③
- 13 パイロットプログラム ④
- 15 声のページ ⑤
- 17 センターのページ ⑥





ンプしていきました。その後、即興音楽家のタケオ(新倉壮朗)がアフリカの太鼓ジャンベをもって登場、ビートジャックの三人と一緒に即興演奏で会場が盛り上がりました。子どもたちも保護者の方や学生ボランティアと、会場に用意されていた小物打楽器等で演奏に参加。演奏者と聴衆の垣根がなくなり、みんな一緒に楽しい音楽の場をつくりあげました。その様子は、この冊子の表紙になっています。音楽の空に向かって、身体も心もジャンプしていき、あっという間の1時間。演奏者の弾む音と子どもたちの笑顔が会場の人々を幸せにしていって、そんなあたいたかいコンサートでした。昨年に引き続き、滋賀大学が連携協定を結んでいる社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房の協力を得て、ホワイエでの原画展等も開催され、好評でした。

コンサートのアンケートでは、「コンサート開始にあたってのお話は、わかりやすく、暗さに慣れる練習などは、とても配慮の行き届いたものだったなあと感じました。特にコンサートを初めて経験する子にとって、とても優しい心配りのあるものだったと思います。前のフロアで、子どもたちが、遊びながら開演の時を待てるのも、素敵なアイデアだなと思いました。」「支援の必要な我が子の元へそと来て、みんなが楽しめるように配慮してくださっていました。(中略) 我が子は手を叩いたり、ジャンプしたりして楽しんでいました。子どもたちが音楽に触れる場が今後もあるといいなと思います。」「あっという間の1時間でした。参加型で、肩肘張らない参加の仕方、親子ともども自由な感じでも安心して参加できました。本物に触れることは、子どもたちにとっても大切だと思います。今後ぜひ、続けていってほしいと思います。」といった感想を頂きました。今回は誰もが楽しめる音楽の場づくりをめざして企画してみました。今後もあるいろいろな工夫を凝らして、進化し続けていきたいと思います。次回からは、夏休みの時期の開催を予定しています。どうぞお楽しみに！(H)

動画はこちらから





令和8年2月1日(日)に栗東芸術文化会館 さきら小ホールで、第2回おとさぼファミリーコンサートを開催しました。このコンサートは、文化庁「令和7年度障害者等による文化芸術推進事業」の委託を受けて、教育学部創立百五十周年記念事業として企画・制作したもので、障害のある方とご家族を主な対象としています。「音楽の空へとびだそう」というタイトルで、前方にマットが敷かれていて自由に座ることができたり、わかりやすい字幕が提示されたり、気兼ねなく出入りができたり、音楽に自由に参加できる仕掛けがあったりと、さまざまな工夫が凝らされています。1回1時間の無料コンサートを2回、各回定員80名で募集しましたが、申込開始からすぐに満席となりました。来場者の2割ほどが昨年のリピーターということで、うれしい限りです。こうして、おとさぼのファンが増えるといいなと思っています。

最初は、ビートジャックトリオの楽しい打楽器プログラムです。大きなマリンバを使って、マリンバってどんな音がするのかわかるの、とんどん増えていくメヌエットという曲が演奏されたり、トルコやアフリカなど、世界のいろんな太鼓が大集合したり、3人がいるんなギロで「人生ギロギロ」というおもしろい曲を演奏したりしました。また、みんなのリズムコーナーでは、リズムのまねっこをしたり、ボディパーカッションで遊んだりしました。楽器や手拍子のリズムが会場の中で一つになって、空に向かってジャ

巻頭特集

【文化庁委託事業】
第2回 おとさぼ
ファミリーコンサート

1 アウトリーチ事業

アウトリーチとは、音楽をいろいろなところに出向いてお届けすることです。おとさぼのアウトリーチは、単に学校などで出前コンサートをすることにとどまらず、参加される方の興味や、先生方・職員さんらのご希望によるオーダーメイド。「音楽でこんな希望をかなえたい」「こんなことができるようになりたい」という思いに寄り添います。



文化庁「令和7年度 障害者等による文化芸術活動推進事業」

文化庁「令和7年度 障害者等による文化芸術活動推進事業」に「大学から地域の障害児者に音楽を普及するモデルの構築—オーダーメイド・アウトリーチを通して」が採択され、16校を訪問して、937名の方々に音楽をお届けしました。「オーダーメイド・アウトリーチ」とは、学校や参加者のニーズや希望に合わせてプログラムを制作するアウトリーチのことです。皆さまからいただいた感想や絵については、絵とおたよりのページや⑤声のページをご覧ください。

学校訪問コンサート開催校



- | | | | |
|----------------|------------|--------------------|------------------|
| ① 2025年 9月10日 | 大津市立大石小学校 | ⑩ 2025年 11月10日 | 大津市立比叡平小学校 |
| ② 2025年 9月17日 | 湖南市立三雲東小学校 | ⑪ 2025年 11月18日 | 滋賀県立総合病院療育センター |
| ③ 2025年 9月24日 | 大津市立中央小学校 | ⑫ 2025年 11月19日 | 大津市立真野小学校 |
| ④ 2025年 9月29日 | 甲賀市立雲井小学校 | ⑬ 2025年 12月 1日 | 大津市立富士見小学校 |
| ⑤ 2025年 10月 8日 | 草津市立玉川小学校 | ⑭ 2025年 12月 9日、10日 | 滋賀大学教育学部附属特別支援学校 |
| ⑥ 2025年 10月14日 | 甲賀市立甲南中学校 | ⑮ 2025年 12月11日 | 滋賀県立長浜養護学校 |
| ⑦ 2025年 10月15日 | 大津市立志賀中学校 | ⑯ 2026年 2月 6日 | 滋賀県立守山養護学校 |
| ⑧ 2025年 10月15日 | 甲賀市立伴谷東小学校 | | |
| ⑨ 2025年 10月29日 | 湖南市立石部小学校 | | |

参加者数 合計 937名





学校訪問コンサートの様子から



湖南省立三雲東小学校 2025.9.17

世界の音楽をテーマに、公演が実施されました。木の実やヤギの爪、牛の骨など、初めて見る楽器に興味津々の子どもたち。楽器を耳に当てて音の響きを感じたり、振る・擦る・叩くなど色々な音の出し方を試したり、嬉しそうに楽器を鳴らす姿が印象的でした。

奏者さんがつくる、穏やかで優しい音楽の世界の中で、子どもたちは自由な表現を楽しみました。(K)



大津市立比叡平小学校 2025.11.10

お箏を使った和楽器のプログラムが実施されました。子どもたちは教室に入ると、すぐにお箏のそばに行き、「さわってもいい？」と興味津々な様子で、音を鳴らし始めました。鑑賞の時には、お箏から出てくる豊かな響きやテクニックに一同釘付けでした。

指で弦をはじいた時の感触、手に伝わってくる振動、出てくる音の響きなど、初めての経験に驚きと感動でいっぱいでした。音楽に合わせて弦をはじく力加減したり、奏者さんのテクニックを真似してみたり、思い思いの表現を楽しみました。力強く、迫力のあるお箏の演奏を間近で聴き、全身でお箏の響きを味わいました。(K)



甲賀市立雲井小学校 2025.9.29

音楽療法士と音あそびのプログラムが実施されました。最初は緊張した表情の子どもたちでしたが、先生方が積極的に楽しんでいて、その様子が子どもたちにも伝わり、次第にいきいきと音楽を楽しんでいきました。途中、マリンバなどの楽器にも自分から進んで演奏していき、自然に音の中に入っているようで素敵な空間でした。

最後には、給食の時間によく流れているという曲を歌うと、立って大きな声で元気に歌う姿や、みんなで揃えて「イエーイ」と掛け声を入れたり、間奏の合間に「ここ好きのところ」と興奮したコメントも聞こえてきました。終了後には、顔を上げて明るい表情で4時間目に向かう姿に心温まる思いがしました。(I)



学校訪問コンサート 絵とおたよりのページ

コンサートの後、たくさんのお手紙や作品が寄せられました！センターの宝物として大切にファイルして保管したり、飾ったりしています。ありがとうございました！！



控室にファンが！

大盛り上がりのコンサートの後、ひとりの男の子が、演奏者控室をノックし、勇気を出して、「大好き」の気持ちを伝えにきてくれました。

楽しみだねえ！

スタッフが職員室に挨拶に行くと、「今日は児童も職員もとっても楽しみにしていました！」開演前にお話された先生も「楽しみだねえ！」もちろんみんなノリノリでした♪

子どもの中に入って演奏する奏者さん



推し活？！

ある養護学校のコンサート。演奏が始まると立ち上がって喜ぶ生徒や手拍子する生徒、指揮をする生徒、デコレーションされた大きなうちわを振る生徒も！

前のめりになって

病院の中にある学校で、子どもたちがベッドから前のめりになって楽器を振ったり叩いたりする姿が印象的でした。

トマトの缶詰！

僕がいんしょうに残った楽器はトマトのかんづめでできた楽器と動物のつのでできている楽器です。ふだん生活でありそうなやつを楽器として使うのがそうぞうできなかったからびっくりしました。(感想より)



新しい歌もおぼえたい

みんなと楽しく歌えたいし、いろんな歌をやってくれてうれしかった。また新しいうたもおぼえたいな。(歌プログラムの感想より)



先生方の声

- ▶ 今回のコンサートを聞いて、「僕、音楽苦手やったけど好きになった。」と言った子がいました。集団の中に入りにくい子が足でリズムをとったり、はじめ耳を押さえていた子が、ノリノリで聞いていく姿を見て教師も感動しました。
- ▶ 教室に戻ってからも、聞いた曲や初めて見た楽器についてうれしそうに話す姿がありました。音楽を全力で楽しみ、体で表現する子どもたちの姿を見て、教職員も心がほっこりしました。
- ▶ コンサートのプログラムを作っている段階では、どんなイベントだろう?とイメージしにくい児童もいましたが、目の前で生演奏を聴き、音楽の迫力、楽しさ、美しさに圧倒されていたように思います。

自分のうたをつくる

附属特別支援学校との「まもりうた」プロジェクト

いつも子どもの心の中であって、子どもに寄り添い、支えとなる歌、「まもりうた」。すべての子どもが、自分のために自分のうたを作る「まもりうた」づくりの活動を提唱している東京の演奏団体 DAYLEDA の音楽家4名を招き、附属特別支援学校中学部の生徒一人ひとりと向き合って、それぞれが自分の「まもりうた」をつくる活動をしました。

DAY1

まずはコンサート形式の<導入>で、どんなふううたをつくるのかを楽しく学びます。次に、音楽家と生徒が1対1で向き合って<作詞・作曲>をします。「〇〇さんはどんな人?」「何が好き?」という問いかけに、話したりうなずいたり笑ったりする生徒の、言葉や言葉にならない気持ちを拾い集め、その抑揚を発話旋律として書き取ってメロディーにしていきます。



DAY2

発表コンサート。「まもりうた」のメロディーに、ピアノトリオの伴奏をつけて、声楽家が「王様の椅子」に座った作者本人や友達の前で演奏します。本人は大喜び、友達のうちにも興味津々。完成した「まもりうた」は、印刷楽譜と mp3 音源で持ち帰って楽しむこともできます。



まとめ

「まもりうた」づくりは、「自分が自分であることの喜び」を味わう活動だと言えるでしょう。音楽で自分を表現し、友達と一緒に鑑賞することで、楽しさが加わり盛り上がります。「一人ひとりが大切にされること」の意味を改めて考えさせられる充実した機会となりました。



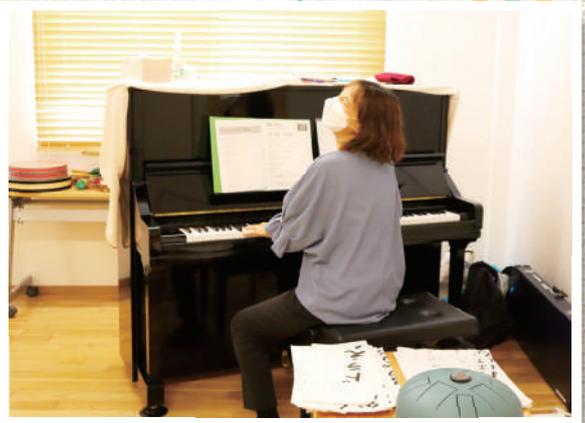
文部科学省委託事業

令和7年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」 (障害者の移行期の学びのモデル構築)

おとさぼ おとなの会 2025.7.28 ~ 2026.1.26

昨年に続き、大空倫子先生をファシリテーターとしてお迎えして、「おとさぼ おとなの会」が開催されました。おとなの会は、特別な支援が必要なおとなの方を対象とした音楽の時間です。おとなの方の余暇の時間として、他のメンバーとともに、楽器を演奏したり歌ったり、気軽に音を楽しむことができる時間として企画いたしました。今年は、10箇所の事業所から申し込みがあり、15回のセッションに154名の方のご参加がありました。

滋賀大学大津キャンパスまで足を運んでいただき、中には彦根から1時間かけて参加された方々もいます。実施場所が大学内にあるため、講義中の声が聞こえてきたり、若い学生たちが集まっていたりと、活気にあふれるこの場所は歩いているだけでもドキドキ。校内の散歩をしてから帰られるグループもありました。



● 事前打ち合わせでは、好きな曲や普段の様子を伺い、いつも異なる内容を大空先生が考えて実施しています。音楽療法士ならではの、一人ひとりに合わせた準備を行いながら、全員で楽しめるプログラムを組みます。

最初は、見慣れない場所、不思議な楽器を前に、少し緊張した様子でした。しかし、硬い表情も、大空先生のピアノの音色が広がると、じっと耳を傾けたり、一緒に歌ったり。じわじわとほぐれていく雰囲気、音楽の魅力とパワーを目の当たりにする時間でした。(1)

施設職員の方からの感想

- いつも自分から話さない利用者さんもおとさぼでの楽しかったことを話してくれたり、歌った歌を他の利用者さんと昼休みに口ずさんだりしたりとよい影響を感じた。
- 音楽＝人前で何かやらされる→嫌な記憶になっている利用者さんが多かったので、堅苦しくなく、音の中で過ごせたこと、みんな良い時間を過ごしてもらうことができました！！
- いつも作業所に遅刻してくる利用者さんも、前の日に「明日はおとさぼだからはやくきてね」と伝えると、遅刻せずにむしろみんなより早くに到着することが出来ていた。本人の楽しみが増えて職員も喜んでいます。
- 普段室内のレクリエーションは嫌がって避けがちな利用者さんが、スムーズに馴染んで楽しんでいる姿を見ることができ、驚きと喜びを一緒に来れなかった職員と共有しました。
- 不安が強く人前で何かをやることに対して拒否の強い方が多いので、「音を紹介」などハードルの低いところからの自己表現が出来て、報告をさせていただいた保護者さんも喜んでおられました。
- 日頃全然音楽に興味をもたなかった利用者さんが、楽器を触り、音を鳴らされている姿を見ることができて、新たな発見気づきがあった。日頃から固定概念に捉われず、利用者さんの可能性を模索していくことが大切だと感じた。



3 指導者研修会

おとさぼでは、障害児者の音楽教育や音楽療法の輪が広がっていくよう、指導者研修会やワークショップを開催しています。音楽教育や音楽療法の実践家や指導者、研究者を講師にお招きしています。



附属特別支援学校 夏季実践ワークショップ 2025.7.31



滋賀大学教育学部附属特別支援学校の夏季実践ワークショップに、松原美保先生（宝塚市立小浜小学校・滋賀大学実地指導非常勤講師）を講師に招いて、「みんなが楽しく参加できる音楽の授業づくり」と題して、主に特別支援学級の教員を対象にした音楽の授業づくり研修会を実施しました。松原先生による具体的な指導法についてのお話や、みんなで実際にワークショップ形式で、常時活動として、授業のはじめや終わりに楽しく取り組めるリズムあそび、音楽づくり、クラッピングなど、実際にやってみました。明日から使える授業の手立てをワークショップ形式で学ぶことができた、参加者に好評でした。(H)



「障害児の音楽活動と支援」（教職大学院 集中講義） 2025.8.30



昨年度から、教職大学院に「障害児の音楽活動と支援」という授業が新設されました。その授業では、障害のある子どもとどのように音楽でコミュニケーションするかについての講義やワークショップの他、おとさぼの学校訪問アウトリーチやファミリーコンサートなどの活動の場にも参加して頂けるというプログラムになっています。活動に参加する前に、音楽棟演奏室で初回の授業がありました。ゲストスピーカーとして、午前は音楽療法士の山本知香先生に、午後は特別支援学校教諭の成田豊先生に、お話とワークショップをお願いしました。教職大学院の学生さんの他、特別支援専攻科に所属する現職の先生らも聴講に来られ、熱心に参加していました。(H)





京都市立小学校の特別支援学級担任、音楽教員等を対象とした教員研修会が「音楽療法士に学ぶ ひとりひとりに寄り添う音楽活動」というタイトルのもと実施されました。当初は20名程度の予定でしたが、50名以上の参加申込があり、特別な支援の必要な子どもたちへの音楽教育に関する関心とニーズの高まりが感じられました。研修では、音楽療法士の大空倫子先生が、さまざまな楽器を用意して、どのような支援をしながら、みんなで音楽をつくるのかをワークショップ形式でやってみました。参加した教員からは、楽しかった、支援の必要な子どもたちと音楽する手立てがわかったと好評でした。(H)



学生のための「まもりうた」づくりワークショップ

2025.12.9



いつも子どもの心の中であって、子どもに寄り添い、支えとなる歌、「まもりうた」。すべての子どもが、自分のために自分のうたを作る「まもりうた」づくりの活動を提唱している演奏団体DA/LEDAの音楽家4名を招き、附属特別支援学校中学部で、「まもりうた」づくりと発表コンサートを2日間にわたって実施しました。その間に、ボランティアに来ている学生のために、「まもりうた」づくりワークショップが9日に行われました。

参加者は「まもりうた」づくりの考え方と方法についてのレクチャーを受けた後、音楽家役と生徒役とに分かれて、「まもりうた」づくりを体験。マインドマップによる

「ことばあつめ」、そのことばを成形する「ことばつむぎ」(作詞)、そして作者自身が読み、その抑揚から「発話旋律」のおとづくり(作曲)をやってみました。音楽家と作者が一对一で向き合っうたをつくる時、言葉だけでなく、作者の発する非言語的な情報も丁寧に拾っていくことで、自己肯定感と、音楽と音楽家への信頼感が深まっていきます。参加者それぞれが自分の「まもりうた」をつくる体験をし、発表したのですが、実際につくってみると、とても楽しい。自分が大切にされると、とてもうれしい。生徒の活動を見ているだけでなく、自分もうたづくりの体験をすることで、どうやって生徒とやりとりをして、うたをつくっていくかがわかります。将来、特別支援学校の教師を希望する学生にとって、とても大きな収穫があったようです。(H)



4

パイロットプログラム

大学センターである強みを活かして、最先端の研究や実験的なプログラムを実施します。学内はもちろん、外部機関とも積極的に連携します。

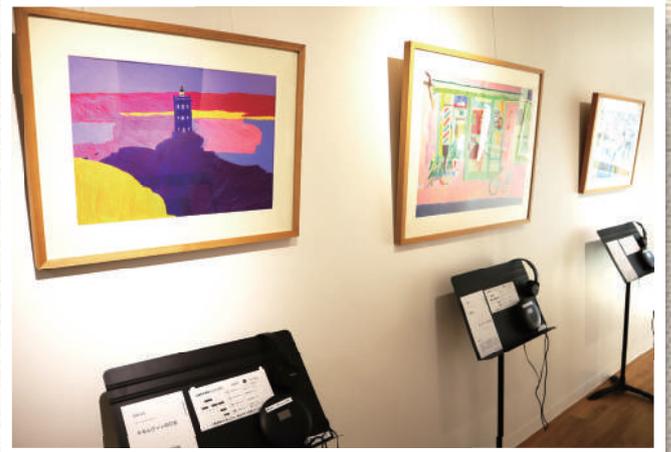


COLOR&SOUND 展

—色と音が交わるところ—

2025.10.6 ~ 11.4

龍谷大学ユネスソーシャルビジネスリサーチセンターとコラボ開催している COLOR&SOUND 展も2回目となりました。色と音との交わりを味わうアール・ブリュット展で、備え付けのヘッドホンで、それぞれの作品に合う音楽と一緒に楽しむという珍しい鑑賞スタイルです。龍谷大と滋賀大の有志で選曲したのですが、滋賀大の教員や学生、卒業生、そして音楽療法に通う生徒さんが、思い思いの曲を選んでくださいました。来年度も龍谷大学とのユニークな視点のコラボ展を開催予定です。お楽しみに！(H)



つながるカラフル展 2025.11.3 ~ 11.14



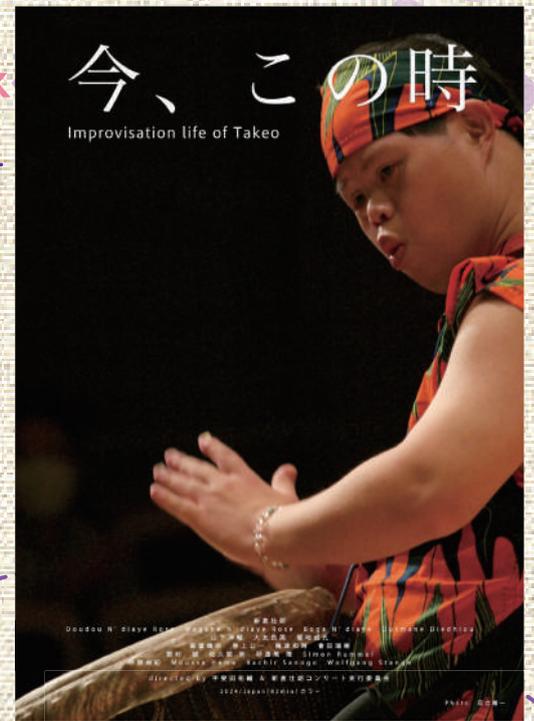
高田美貴(MIKI)さんは、個展を開催されたり、国内外の展覧会等にも出展されている作家さんです。早期療育(ダウン症)の筋力の訓練を兼ねて1歳4ヶ月頃から鉛筆を握り描き始め、今では150色の色鉛筆で表現しています。そんなMIKIさんのカラフルな絵でみんなが繋がれたらと思い、教育学部150周年記念式典のある期間に展覧会を実施しました。MIKIさんも来学され、実際に絵を描かれたり、来場者と交流されたりしました。音楽棟のギャラリーはこれまでにないほどの賑わいでした。式典の会場前にも絵のパネルが展示され、弦楽四重奏が奏でられ、音楽と絵画の美しいコラボレーションに思わずうっとりしました。(H)





映画「今、この時」上映会

2025.10.19



おとさぼの音楽療法の講師から、「即興音楽家タケオの音楽性が素晴らしい。最近、新しい映画が公開されたらしい」と聞き、おとさぼで自主上映会をしました。タケオ(新倉壮朗)は、幼少時よりセネガルのミュージシャンらからリズムを吸収し、音楽的才能を開花させていきました。名だたるミュージシャンとの白熱するセッションなど、タケオの魅力がいっぱいつまった82分のドキュメンタリー映画です。タケオの生き様が感じられました。私が特に感動したのは、いろんな国へ行って、タケオが言葉を超えて、現地の音楽家と音楽で通じ合ってしまう姿です。映画をきっかけに、タケオさんにファミリーコンサートにも出演して頂きました！ 詳細は巻頭特集をご覧ください。(H)

第2回

おとさぼ ファミリーコンサート

2026.2.1



2026年2月1日(日)に、栗東芸術文化会館さきらで、「第2回 おとさぼファミリーコンサート」を実施しました。今年度は「おんがくの空へとびだそう！」をテーマに、みんなで楽しめる音楽の場をめざしました。巻頭特集でも詳しく紹介していますので、このページでは、参加者の声を中心に紹介します。

感想

子どもも大人も楽しめました。ありがとうございました♪ 定員が決まってるので、応募に間に合い良かったです。

● 支援の必要な我が子の元へそっと来て、みんなが楽しめるように配慮してくださってました。本当にありがとうございます。我が子は手を叩いたり、ジャンプしたりして楽しんでいました。子どもたちが音楽に触れる場が今後もあるといいなと思います。

♪ コンサート開始にあたってのお話は、わかりやすく、暗さになれる練習などは、とても配慮の行き届いたものだったなあと感じました。特にコンサートを初めて経験する子にとって、とても優しい心配りのあるものだったなあと感じました。前のフロアで、子どもたちが、あそびながら開演の時を待てるのも、素敵なアイデアだなと思いました。

♪ あっという間の1時間でした。参加型で、肩肘張らない参加の仕方が、親子ともども自由な感じでとても安心して参加できました。本物に触れることは、子どもたちにとってとても大切だと思います。今後ぜひ、続けてほしいと思います。



おとさぼ
ふあみりー Family Concert
おんがくの空へとびだそう！
2026 2/1日
①13:00 開演 (12:30 開場)
②15:00 開演 (14:30 開場)
【公演1時間程度、2部公演、入場料、自由席】
入場無料 (事前申込制)
栗東芸術文化会館さきら 小ホール
定員 各回 80名 (先着順)
【お申込方法】URL または QRコードから
【お問合せ】
滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター 2号とさぼ
TEL/FAX 077-537-7744

5 声のページ

利用者の声や心温まるエピソード、利用者数などの普及実績をまとめたページです。



エピソード集



[ep.01] ある養護学校でのコンサートの合間の出来事。演奏者控室に先生に連れられて小学部の低学年くらいの男の子がやってきました。とても恥ずかしそうに、小さな声で「ありがとう」と。よく見ると、コンサートの最中にノリノリで投げキッスを送ってくれていた子でした。「大好き」の気持ちを伝えにきてくれたんだね。うれしかったよ。(学校訪問コンサートの演奏者)

[ep.02] 子どもからの感想で「やる気がアップした!」という言葉を見つけて、面白いなと思いました。子どもの可能性と音楽がもたらす効果について改めて考えました。音楽をお届け出来て良かったなと思います。(学校訪問コンサートの演奏者)

[ep.03] おとさぼのマットは、時に舞台になり、時に家になります。ある日女の子は、マットを立てて、それをついたてにして自分の秘密基地を作り、過ごしていました。音がかさこそ聴こえるのをたよりに、音で返事をしていると、しばらくして彼女の大事なぬいぐるみがついたての上にひょっこり顔を出しました。音の返事を聴いて、ぬいぐるみはびよんびよん跳ね、踊りはじめました。あっちからこっちから顔を出し、とうとう彼女自身も満面の笑みで飛び出して踊り、舞いました。別の日には、またついたての向こうで秘密の準備がされ、彼女は司会進行をするようにマットから出て挨拶をし、またマットの向こうに隠れました。「こんな音楽がいい」とリクエストがあり、それに応えると、ぬいぐるみや楽器がマットから飛び出し、楽しい演奏やダンスがはじまりました。そしていつも最後には、本人がマットからでて満面の笑みで全身で表現してくれるのでした。(おとさぼ音楽療法の講師)

[ep.04] 「つながるカラフル展」では、150色の色鉛筆で描かれた MIKI さんの作品が多数展示され、おとさぼギャラリーが華やかな雰囲気になりました。絵に近づいてみると、その細かな描写と、細部にまでカラフルな世界が広がっていることに驚きます。絵の美しさの中から、まるで150色の色鉛筆たちの歌声が聞こえてくるようなワクワクとした楽しさが感じられました。(おとさぼスタッフ)

[ep.05] 発表会を見学していてとても印象に残ったのが、歌とピアノ演奏をしていた子です。始めるまではソワソワしているように思っていたのですが、歌い始めた瞬間に雰囲気が変わりまっすぐ通ってくる歌声にとても驚きました。また、それぞれがそれぞれの形で取り組んでいる演奏を聴いて、音楽の形は決まっているわけではないのに決めつけてしまっていたことに気づきました。(ピアノ発表会を見学した学生)

[ep.06] 音楽療法のセッションでは、玄関で生徒さんの声が聞こえると「〇〇く～ん!」と講師の先生が生徒のもとに駆け寄り、あたたかい雰囲気です。大好きなギターを持った先生の姿を見つけ、「今日はギターのセッションかな?」とワクワクした様子でセッションに向かう生徒さんの様子が印象的でした。(おとさぼスタッフ)

[ep.07] 小学生の子どもたちは、最初は少し緊張している様子でしたが、ロビンさんが一人ひとりに声をかけていくうちに、だんだんと音楽の世界に引き込まれていくように見えました。最初は耳を塞いでいた子も、最後には笑顔になり、待ちきれないように楽器へ駆け寄り姿がとても印象的でした。終わったあとの子どもたちの顔には、楽しさや達成感がにじみ出ていて、こちらまで心が温くなるようでした。改めて、音楽のもつ力の大きさを感じられるひとときになったと思います。(学校訪問コンサートに参加した学生)

[ep.08] 滋賀県立総合病院療育センターで実施したアウトリーチでは、たくさんの先生方や保護者の方に囲まれて、アットホームな雰囲気の中、子どもたちは珍しい楽器に興味を持ち自分から近寄りたり、手を伸ばしたりする様子が見られ、親子で楽しむ音楽活動となりました。音楽にあわせて皆で一緒に味わう時間、そして、終了後には気になる楽器に触れたり、ひとりで音をつくる時間があることで、たっぷり音を楽しむことができたのではないかと感じます。(おとさぼスタッフ)

[ep.09] コンサートといえば、奏者の演奏を静かに聴くイメージでしたが、ファミリーコンサートでは奏者と子どもたちが一緒に演奏しており、みんなで一緒に音楽を楽しむ会場の雰囲気が心地よかったです。(ファミリーコンサートに参加した学生)

[ep.10] 附属特別支援学校での「まもりうた」プロジェクトで、生徒一人ひとりが音楽家と自分の歌づくりをするのですが、欠席した友達の歌を3人くらいの生徒が自主的につくって来ていました。「〇〇くんは物知りだよ」「まじめだね」と友達へのやさしいまなざしが感じられて、音楽家の方々も感動していました。(おとさぼスタッフ)

[ep.11] センターを視察に来られた方に、「音楽の専門性が入るとこうなるのですね」と言われたことが嬉しかった。自分たちの音楽の専門性にもっと誇りをもってもいいのかもしれないと思った瞬間でした。(おとさぼセンター長)



活動実績



活動実績（普及状況）			
令和7年度 事業数26事業/参加者数1415人			
区分	事業名	参加者数(人)	
アウトリーチ	文化庁 学校訪問コンサート 大津市立大石小学校 湖南市立三雲東小学校 大津市立中央小学校 甲賀市立雲井小学校 草津市立玉川小学校 甲賀市立甲南中学校 大津市立志賀中学校 甲賀市立伴谷東小学校 湖南市立石部小学校 大津市立比叡平小学校 滋賀県立総合病院療育センター 大津市立真野小学校 大津市立富士見小学校 滋賀県立長浜養護学校 滋賀県立守山養護学校 滋賀大学教育学部附属特別支援学校	937	
	インリーチ※1	第2回 おとさばピアノ発表会	57
		おとさばおとなの会	154
	研修会	附属特別支援学校 夏季実践ワークショップ	18
		障害児の音楽活動と支援（教職大学院 集中講義）	13
		京都市教員研修会	53
	パイロット	やまなみ工房常設展	※2
		タケオ「今、この時」上映会	20
		高田美貴「つながるカラフル」展	※2
		COLOR&SOUND展「色と音が交わる場所」2025	※2
		第2回 おとさばファミリーコンサート	163
	合計	26事業	1415

※1：この他に、音楽療法、特別支援ピアノレッスンの教室を常時開設している。

※2：無人展示のため、人数カウントなし。



今後に向けて

活動開始から5年で、滋賀県内の全ての特別支援学校、湖南地区全市の特別支援学級を訪問しました。今後は、県外にも活動の場を広げていく予定です。来年度は、学校以外のさまざまな場にもアウトリーチに行ってみたいと思います。



6 センターのページ

センターの基本情報と
センターの今についてお伝えします。



藤村 泰子さま

滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター（愛称：おとさぼ）は、故・藤村泰子氏から「障害児者の音楽教育事業のために」とご寄附を頂いたことに始まります。藤村氏は音楽を愛好され、自らも音楽に励まされた経験をたくさんされたことから、障害とともに生きる方々に生涯にわたって音楽に親しむ機会をと考えられました。

滋賀大学では、ご寄附をもとに「滋賀大学藤村泰子記念基金」を設立、教育学部に附属音楽教育支援センター「おとさぼ」を開設し、障害児者を中心とした音楽教育プログラムの提供、音楽活動の支援を行います。

◆ センタースタッフ

林 睦	センター長（兼任）	教育学部教授（音楽教育）
宝田 美子	センター専任教員	教育学部特任講師
若林 千春	センター員（兼任）	教育学部教授（作曲）
中根 庸介	センター員（兼任）	教育学部准教授（器楽：管楽器）
渡邊 史	センター員（兼任）	教育学部准教授（声楽）
窪田 知子	センター員（兼任）	教育学部教授（特別支援教育）
羽山 裕子	センター員（兼任）	教育学部准教授（特別支援教育）
松島 明日香	センター員（兼任）	教育学部准教授（障害児心理学）
石田 基起	センター員（兼任）	教育学部講師（障害児教育・障害児生理心理学）
藤田 昌宏	センター員（兼任）	教育学部教授（彫刻）
馬淵 哲	センター員（兼任）	教育学部教授（絵画・美術教育）
世ノ一 善生	センター員（兼任）	教育学部教授（グラフィックデザイン・附属特別支援学校長）

◆ センター情報

滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター おとさぼ

〒520-0862

滋賀県大津市平津 2-5-1 滋賀大学教育学部音楽棟内

TEL/FAX 077-537-7744

E-mail otosapo@edu.shiga-u.ac.jp

ホームページ <https://otosapo.com>



ホームページ

◆ アクセス

滋賀大学教育学部（大津キャンパス）

JR 石山駅（京都駅から琵琶湖線で13分）からバスで10分

京阪石山寺駅からバスで5分

京滋バイパス「石山IC」から車で3分



アクセス

◆「滋賀大学藤村泰子記念基金」へのご寄附のお願い

当センターの事業を将来にわたり息長く継続し、発展させていくために、本基金設立の趣旨にご理解とご賛同をいただき、特段のご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

◎ご寄附の方法 銀行振込（本学所定の振込用紙により手数料無料）、
クレジットカードでもご寄附が可能です。税制上の優遇措置もございます。

詳しくは以下の滋賀大学の寄附金ページをご覧ください。

<https://www.shiga-u.ac.jp/kikin/>



ご寄附について

◆ 委託事業

令和7年度「障害者等による文化芸術活動推進事業」（文化庁）
令和7年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」（文部科学省）
（障害者の移行期の学びのモデル構築）

◆ 助成

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会「地域共生型社会推進事業助成金」
滋賀県障害児・者地域活動推進事業補助金

◆ メディア掲載

- 2025/10 文化庁受託事業 令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業
滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターによる「特別支援学校・特別支援学級へのオーダーメイド・アウトリーチ」（滋賀大学産学公連携推進機構年報 No.6） pp.107-108
- 2026/2.9 「滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターによる『大学から地域の障害児者に音楽を普及するモデルの構築－オーダーメイド・アウトリーチを通して』」（令和7年度 障害者等による文化芸術活動推進事業 事例最終報告会）
- 2026/3 「滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターによる『大学から地域の障害児者に音楽を普及するモデルの構築－オーダーメイド・アウトリーチを通して』」（令和7年度 障害者等による文化芸術活動推進事業 事例集）

◆ 研究業績

- 林 睦 学会発表「バリアフリーコンサートの実践的研究－滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターおとさぼの事例をもとに－」（文化経済学会〈日本〉2025年京都大会, 2025年7月6日, 京都橘大学）
- 林 睦 依頼論文「誰もが楽しめる音楽の場づくりについて考える－滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターおとさぼの事例から－」『音楽教育実践ジャーナル』vol.23(2025) pp.30-35
- 林 睦 寄稿「附属音楽教育支援センター『おとさぼ』の創設」『滋賀大学教育学部のあゆみ－創立150周年記念誌－』（滋賀大学教育学部150周年史編集WG, (2026) pp.87-92

◆ 編集後記◆

センター5年目。おとさぼもほぼ立ち上がり、次のステージに入ったと感じます。おとさぼにしかできないことって何だろう？と考えるようになりました。それは音楽の専門性をベースに、研究モードで新たな世界を開拓していくことではないでしょうか。おとさぼをフィールドに、そこに集うひとが「今、生きてるな」と感じられるような活動をしていきたいと思います。

センター長 林 睦

今年度からセンター専任教員として着任して1年が経とうとしています。おとさぼの音楽イベントを開催するまでの段取りなど、沢山の難しさを実感しましたが、来場された方の喜ぶ表情を見るととても嬉しく、晴れやかな気持ちになりました。支えてくださった皆さまに心より感謝いたします。

センター専任教員 宝田 美子

事務室もメンバーが変わって、バタバタと忙しい1年でした。おとなの会もたくさんの方に参加いただき、心温まる時間を共有できたことは、とても幸せな時間でした。ありがとうございました。

センター事務 岩室 瑠花

おとさぼの活動を通して、素敵な出会いがたくさんあり、多くのことを学ばせていただきました。人の心に寄り添い、エネルギーを与えてくれる音楽の素晴らしさを、改めて感じた一年でした。スタッフとしてお手伝いさせていただいたことを大変嬉しく思います。ありがとうございました。♪

センター事務 片岡 由海

2025年4月よりおとさぼでお仕事をさせていただき、音楽っていいなと改めて感じた一年間でした。

おとさぼファミリーコンサートでは、出演者・観客・スタッフが、いろんな楽器を使って奏でた、それぞれの音が混ざり合っ、ひとつの「音楽」となり会場が盛り上がり、とても楽しい時間でした。

センター事務 西川 慶子





滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター

 **おとさぽ** vol.5

2025 年度
滋賀大学教育学部
附属音楽教育支援センター
おとさぽ 活動報告書

発行日 2026年3月31日

発行 滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター
〒520-0862 大津市平津 2-5-1
TEL/FAX 077-537-7744
E-mail otosapo@edu.shiga-u.ac.jp
<https://www.otosapo.com>

編集委員 林 睦・宝田美子・岩室瑠花・片岡由海・西川慶子

編集・印刷 ビジネスサービス株式会社

表紙写真 みんなが楽しめる音楽の場